

平成29年度 学校自己評価表

(計画段階・実施段階)

福岡県立門司学園中学校長 印

学校番号

中2

学校運営計画(4月)		評価(3月)																		
学校運営方針	併設型中高一貫教育校の中学校として、中高それぞれの教員が相互に連携し、その特性を最大限に生かす6年間を見通した教育課程を確立し、100年後に繋がる確固たる礎を築く。	B																		
昨年度の成果と課題	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>年度重点目標</th> <th>具体的目標</th> </tr> <tr> <td>規律ある授業環境の提供</td> <td>整然と落ち着いた授業環境の維持により授業効果向上を図る。</td> </tr> <tr> <td>学力向上策実践と授業改善</td> <td>進路実現を支える確かな学力を身につかせ、主体的・対話的で深い学びを実現するため、指導方法・授業評価方法の研究に努め、魅力ある授業を展開する。</td> </tr> <tr> <td>心を耕す教育の充実</td> <td>「鍛ほめ福岡メソッド」を実践して、自他を認め合い、相手の気持ちを思い遣ることができる人権感覚と自尊心・自己肯定感・人命尊重の精神を育む。</td> </tr> <tr> <td>心と体の健康教育の推進</td> <td>課題を抱える生徒の早期発見・早期対応による支援体制を確立し、授業や部活動をととして心身ともに健康な生徒を育成する。</td> </tr> <tr> <td>教育活動の一層の魅力化と広報活動の充実及び地域との連携</td> <td>授業だけでなく学校行事などの内容を更に充実させ、学校の「魅力化」とそのアピールに努めるとともに、地域や同窓会とも連携して教育活動の一層の活性化を図る。</td> </tr> <tr> <td>「思考力・判断力・表現力」の向上</td> <td>知識・技能と思考力・判断力・表現力を身につけるとともに、英語力を向上させ、未知の状況にも対応できる課題解決力を育成する。</td> </tr> <tr> <td>協力的で高い教育効果を発揮できる教員集団づくり</td> <td>中高教職員が連携を深め、互いの深い信頼関係と温かい人間関係の中で、組織力を高め、意欲的・積極的・協力的に、建設的な意見交換・提案を行う。</td> </tr> <tr> <td>施設・設備等の教育環境整備</td> <td>生徒が安全・安心な環境の中で、快適に充実した学校生活を送り、学習活動を行うことができるよう、施設・設備等の点検・維持・充実に努める。</td> </tr> </table>		年度重点目標	具体的目標	規律ある授業環境の提供	整然と落ち着いた授業環境の維持により授業効果向上を図る。	学力向上策実践と授業改善	進路実現を支える確かな学力を身につかせ、主体的・対話的で深い学びを実現するため、指導方法・授業評価方法の研究に努め、魅力ある授業を展開する。	心を耕す教育の充実	「鍛ほめ福岡メソッド」を実践して、自他を認め合い、相手の気持ちを思い遣ることができる人権感覚と自尊心・自己肯定感・人命尊重の精神を育む。	心と体の健康教育の推進	課題を抱える生徒の早期発見・早期対応による支援体制を確立し、授業や部活動をととして心身ともに健康な生徒を育成する。	教育活動の一層の魅力化と広報活動の充実及び地域との連携	授業だけでなく学校行事などの内容を更に充実させ、学校の「魅力化」とそのアピールに努めるとともに、地域や同窓会とも連携して教育活動の一層の活性化を図る。	「思考力・判断力・表現力」の向上	知識・技能と思考力・判断力・表現力を身につけるとともに、英語力を向上させ、未知の状況にも対応できる課題解決力を育成する。	協力的で高い教育効果を発揮できる教員集団づくり	中高教職員が連携を深め、互いの深い信頼関係と温かい人間関係の中で、組織力を高め、意欲的・積極的・協力的に、建設的な意見交換・提案を行う。	施設・設備等の教育環境整備	生徒が安全・安心な環境の中で、快適に充実した学校生活を送り、学習活動を行うことができるよう、施設・設備等の点検・維持・充実に努める。
年度重点目標	具体的目標																			
規律ある授業環境の提供	整然と落ち着いた授業環境の維持により授業効果向上を図る。																			
学力向上策実践と授業改善	進路実現を支える確かな学力を身につかせ、主体的・対話的で深い学びを実現するため、指導方法・授業評価方法の研究に努め、魅力ある授業を展開する。																			
心を耕す教育の充実	「鍛ほめ福岡メソッド」を実践して、自他を認め合い、相手の気持ちを思い遣ることができる人権感覚と自尊心・自己肯定感・人命尊重の精神を育む。																			
心と体の健康教育の推進	課題を抱える生徒の早期発見・早期対応による支援体制を確立し、授業や部活動をととして心身ともに健康な生徒を育成する。																			
教育活動の一層の魅力化と広報活動の充実及び地域との連携	授業だけでなく学校行事などの内容を更に充実させ、学校の「魅力化」とそのアピールに努めるとともに、地域や同窓会とも連携して教育活動の一層の活性化を図る。																			
「思考力・判断力・表現力」の向上	知識・技能と思考力・判断力・表現力を身につけるとともに、英語力を向上させ、未知の状況にも対応できる課題解決力を育成する。																			
協力的で高い教育効果を発揮できる教員集団づくり	中高教職員が連携を深め、互いの深い信頼関係と温かい人間関係の中で、組織力を高め、意欲的・積極的・協力的に、建設的な意見交換・提案を行う。																			
施設・設備等の教育環境整備	生徒が安全・安心な環境の中で、快適に充実した学校生活を送り、学習活動を行うことができるよう、施設・設備等の点検・維持・充実に努める。																			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題																
第1学年	基本的生活習慣の確立を図る。	朝の会や帰りの会において、身だしなみを意識させる。 日々の活動において、時間厳守を徹底させる。	A B	B	・生徒の多くは、基礎基本的な学習習慣が身につけていると思われるが、更なる学力向上のために、全体指導と併せて日誌指導に取り組むなど個別指導にも力を入れていきたい。進路指導について、上級生になることを自覚させながら、より現実的な自己実現像を構築させたい。また、大学訪問や修学旅行などの校外活動を通して、具体的な視点を持たせながら取り組ませたい。学年間の人間関係については、これまで、学年全体での活動を多く設けたせいか、比較的良好なものを築けていると考えているが、この雰囲気を途絶えさせないように次年度も、学年全体の活動を工夫していきたい。															
	学習習慣を身に付けさせ、基礎基本的学習内容の定着を図る。	学級活動や授業において、提出物や課題等を迅速に提出させる。 学習計画表を活用し、日々の家庭学習を定着させる。	B B																	
	他者を尊重する意識を育て、お互いに認め合う集団の育成を図る。	日々の活動において挨拶を励行させる。 日々の清掃活動に積極的に取り組ませる。	B B																	
	自己実現を目指す意識及び進路意識を涵養し、意欲的に学ぶ力を育成するとともに、個性の伸長を図る。	総合的な学習の時間や学校行事に積極的に取り組ませる。 委員会活動や日直活動に積極的に取り組ませる。	A B																	
	家庭学習の習慣を定着させる。	計画的に学習課題を出し、提出状況を確認する。 日々の家庭学習の記録をつけさせ、担任が確認する。	B C																	
第2学年	基本的生活習慣を確立させる。	始業のチャイム前までの授業準備と着席を徹底させる。 授業の始めと終わりのあいさつを大きな声で行わせる。 帰りの会において生活ノートを記入させ、忘れ物がないようにする。	B C C	B	・家庭学習の習慣が身につけていない生徒がいるので、家庭学習の記録の徹底を行うとともに、日々の呼びかけを行っていく。 ・授業の始めと終わりのあいさつの声が小さいので、大きな声であいさつさせる。 ・何事に対しても自分で考え、主体的、積極的に取り組む姿勢が乏しいので、係活動や生徒会活動、清掃活動等、それぞれの役割を持たせ、その中で主体的、積極的に活動するようにさせる。 ・まだ自己中心的な行動が見られる生徒もいるので、思いやりの気持ちを持って人と接することができるように、道徳の時間等を充実させる。															
	物事を主体的に考え、積極的・意欲的に取り組む生徒を育てる。	学級の係活動や生徒会活動に積極的に取り組ませる。 清掃活動に積極的に取り組ませる。 「夢を語るコンテスト」をととして、主体的に考え積極的に発表する力を身につけさせる。	B B B																	
	思いやりと励まし合いの気持ちを持った門司学園13期生集団の形成を図る。	修学旅行の班別研修を、生徒全員で協力して計画し実施する。 道徳の授業を充実させ、いじめや差別を許さない学年集団を形成する。	C B																	
	リーダーシップが発揮できる生徒を育成する。	生徒会中央委員や学級総務委員が中心となり各行事、学年集会を行わせる。リーダーに基本的生活習慣を守らせ、他の模範となる行動をとるよう指導する。	B																	
	日々の授業に緊張感を持たせ、学習を充実させる。高校で学ぶ基礎を定着させる。	「学習の記録」を記入させ、学習習慣の定着を図る。 学力分析テストの自己分析や計画的に定期考査に臨ませることで学習意欲を高めさせる。 「勉強合宿」を実施し、学習意欲の向上を図る。	B B A																	
第3学年	授業規律を徹底させる。	チャイムと同時に授業を始め、提出物の提出を徹底させる。	B	B	・各行事を通して、中学校3年生として自覚ある行動がとれるようになった。中学生は行事で育てる必要があり、そのためには行事の精選(減少)で1つの行事により丁寧な準備と振り返りを今後は持つべきと感じた。学習面では、生徒によっては課題の提出率が極端に悪く、学習習慣が定着していない生徒も見られた。保護者会や日常の保護者連絡で家庭の協力をお願いして改善される場合もあり、保護者とのより緊密な連携が必要であると感じた。															
	学年やクラスの団結心を高め、お互いを思いやって協力する態度を養う。	体育大会、学園祭などの学校行事を通じて、生徒の主体的な活動を支援することで、達成感を共有し、クラスの絆や団結心を深める。	A																	

平成29年度 学校自己評価表

(計画段階・実施段階)

福岡県立門司学園中学校長 印

学校番号

中2

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教務課	総合的な学習の時間、学校行事、セルフタイム等の充実を図り、魅力ある学校づくりを行うとともに、本校の教育活動の広報に努める。	学校行事等で異年齢交流を推進する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年単位での高校生との交流を推進する。 ・総合的な学習の時間では、各教科との連携をさらに深めるとともに、主体的・協働的に学習に取り組ませる。 ・ホームページを用い、学校の教育活動の発信に努める。
		卒業研究を柱とした総合的な学習の時間の充実と各教科・学年との連携を図る。	A		
		ホームページと学校説明会の充実を図り、情報発信を強化する。	A		
	中高の教員が連携し、6年間の戦略的な教科指導を展開するとともに、生徒の学習活動を重視した授業改善を図り、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	I C T機器の整備と I C T機器を効果的に用いた授業を推進する。	A	A	
		アクティブ・ラーニング型授業を適宜取り入れ、思考力・表現力・判断力を育成する。	A		
		中高教員の相互授業乗り入れを推進し、中高の接続を円滑に図る。	B		
生徒指導課	基本的生活習慣や規範意識の向上に取り組む。	挨拶に対する意識を高めるとともに、服装・頭髪等の基本的な身だしなみの指導を推進する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭の企画・運営の改善実施する。 ・生徒の主体的な取組による生徒会活動を充実発展させる。 ・部活動中高連携を推進する。 ・はつらつとした挨拶実践へ意識を向上させる。
		携帯電話の使い方に関するマナーの指導に取り組む。	A		
		通学安全とバスの乗車マナーに関する取り組みを継続して行う。	B		
		規範意識育成教室の充実や教育相談活動により、いじめや非行の防止に努める。	A		
	高校と連携した行事の活性化や部活動の推進を図る。	学園祭の企画・運営の改善に取り組む。	B	B	
		部活動運営の中高連携の推進と高校部活動参加に関する条件整備に取り組む。	A		
進路指導課	新しい大学入試制度に対応した思考力・判断力・表現力を育成する。	新しい大学入試制度に対応した新しい模擬試験を全学年で導入し、事前・事後指導を通して学力の育成を図る。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学総合学力調査(新テストに対応した模試)の事前・事後指導を充実させる。 ・本年度のトップゼミについては、夏・冬とも10名以上の参加があり、上位層の学習意欲の向上につながった。来年度も継続して実施したい。
		総合的な学習の時間での取り組みを通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	A		
	学習意欲を向上させる。	トップゼミを開催し、上位層の学習意欲の向上につなげる。	A	B	
		早期に将来の目標設定ができるよう、進路に関する情報発信を積極的に行う。	B		
保健課	快適な学習環境の整備に努める。	学習環境の点検と清掃活動を徹底させるために整美生活委員会を活性化させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・整美生活委員会のピカピカ大作戦を定期的に計画させ、校内美化への意識をさらに高める。 ・Jアラームへの対応の仕方を検討する。 ・中高の情報交換を密に実施する。
	生徒の健康課題を把握し、健康教育の充実を図る。	学級担任及び教科担任と保健室の密な連携によって、生徒の健康情報に関して校内の共通理解を図る。	A		
	施設・設備の安全点検を行い、事故防止に努める。	緊急時の避難経路および設備の点検を行うとともに、防災・避難訓練を計画し実施する。	A		
	心の問題の早期発見・対応に努める。	スクールカウンセラーを有効に活用し、生徒と保護者が早期に相談できる体制を整える。	A		
研修課	教職員の自己研鑽に対する意識を高め、研修活動を通しての指導力向上を目指す。	教職員の研修・実践の内容を1年間の記録として整理し、その成果を掲載した研究紀要を年度末に発行する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要の項目を高校との一体感を持たせるアクティブラーニング型授業に沿った学習指導案の提案と授業実践の実施を行う。 ・授業アンケートを全職員で検証、共有し、日々の授業改善に生かせるように努める。 ・アクティブラーニング型授業に対応した評価方法の実施に努める。
		年間を通じた研修の成果や個人研究の発表の場を設定することで、教員間での情報交換を積極的に行う。	B		
		年間2回の授業見学期間を設定し、教職員が相互に授業参観することによって、指導方法の工夫改善を図る。	B		
	生徒の発達段階に応じた指導の展開や、知識・技能を確実に身につけさせるための教科指導法等の研究の推進を図る。	年間2回の授業改善アンケートを実施し、その結果を分析し授業に還元することで、指導力向上を目指す。	A	A	
		観点別評価方法などの評価能力の向上、情報リテラシーの向上等を目的とした研修会を実施する。	A		
		学習や生活において配慮を要する生徒に関する研修会を実施し、教職員間で情報を共有する。	A		